

第13回富山市まち・ひと・しごと総合戦略会議

各委員からのご意見、対応（案）一覧

委員名	意見等	対応（案）
星川委員	①富山市を転入・転出した理由について、アンケート調査結果を男女別に集計してはどうか。 ②富山出身者で現在県外に居住している人に対して、転出理由等を問うWebアンケートを実施してはどうか。 ③まちなかから中山間地域までを含んだ多様性は富山市の魅力の一つであり、多様性を生かしたまちづくりが求められる。各地域の人の満足度を高める施策の展開により、富山市の多様な魅力を整備していくことに繋がると考える。	①男女別に再集計。 追加資料（2）参照 ②令和7年度以降のアンケート調査の実施を検討する。 ③令和7年度より、移住政策として「移住者発掘・トータルサポート事業（新規事業）」に取り組む予定。
東出委員	各施策が総合的に密接に繋がっており、各施策の担当所属が連携し、より効果的に目標達成すること重要である。そのためには、全職員が戦略の理念を理解し、地域ビジョンも体得し、「緩和」「適応」「潤い」というキーワードを身近に感じながら、実際に行動していくことが重要である。 また、市民に対して広報し、協働することも、総合戦略の成果に繋がるのではないかな。	総合戦略に位置づける事業を、各部局に提案してもらう段階から、理念や地域ビジョンなど戦略の骨子について全部局と共有した。 引き続き、策定する総合戦略の周知に努める。
田中委員	①若年層を引きつけるスタートアップやクリエイティブ産業等の魅力的な産業の育成・企業誘致施策を大胆に行っていくことが重要である。スタートアップ企業におけるDX等の取組を、域内の中小企業等に横展開することで、DX・GXの普及を促し、経済循環を強く太くしていく施策の展開を期待する。 ②まちなかの賑わいや人流の創出はまだ途上と感じる。消費の拡大や税収増、また、若年層の出会いの場を創出し、人口減少の緩和につなげていく等、人流の創出には様々な効果が期待できることから、人流を太くするための施策は有効ではないか。	①医薬品等製造業や、若者にとって魅力的な情報通信関連産業に特化した企業誘致に係る新規事業に取り組む予定。 また、DX・GXの普及展開については、令和7年度以降、具体的な施策等を検討する。 ②人流や賑わい創出に資する新規事業に取り組む予定。 ⇒民間との連携事業については要検討
石田委員	①雇用環境の整備や、若者・女性が魅力を感じるような雇用の創出にしっかり取り組んでいくことが必要と考える。 ②地域経済の活性化策として、外国人との共生という視点も取り入れていけばよい。外国人労働者が安心して富山市で生活し、一緒に仕事や交流ができるような環境整備も、今後の着目点と考える。	基本目標1「産業活力の向上により、安定した雇用を創出する ～地方の中核を担う都市として躍動するまち～」に「(8)若者や女性にとって魅力的な雇用機会の創出」や「(9)若者や女性に選ばれる雇用環境の整備」を位置づけ、 ・若者が魅力を感じる企業誘致推進事業 ・女性活躍環境づくり推進事業 等に取り組む。 ②令和7年度以降、具体的な施策等を検討する。

委員名	意見等	対応（案）
酒井委員	若者（女性）を呼び込むだけでなく、継続してもらう、地域に定着するような、具体的な施策を期待している。例えば、具体的な仕事の内容や、仕事に対する理解を深めるような情報発信を交えることで、市内定着に繋がるのではないかな。	基本目標1「産業活力の向上により、安定した雇用を創出する ～地方の中核を担う都市として躍動するまち～」に「(10)若者や女性に向けた雇用情報の発信強化」を位置づけており、今後、若者や女性の定着につながる具体的な施策について検討していく。
今泉委員	①就職支援など、引き続き、市との連携に努める。 ②第2期戦略の数値目標で、「県内大学卒業生の県内就職率」は目標達成に至っていないが、「県内高校出身の県外大学生のUターン就職率」の達成状況はどうか。	①就職支援等について、引き続き、連携に努める。 ②数値目標60%に対し、令和4年度実績が55.3%で未達成であった。
須田委員	訪日外国人観光客数は、現在、毎月同月過去最高を更新しており、外国人観光客の誘致は目標をたてて取り組まなければならない。 観光産業の活性化は、新しい仕事の創出や様々な業種で“稼げる”構造になっていることから、今後は観光産業も重点項目としていただきたい。	基本目標2「交流・定住を促進し、富山市への新しい人の流れをつくる ～選ばれるまち～」に「(2)広域型観光の推進と外国人観光客の誘致」を位置づけ、 ・観光客誘致宣伝事業 ・外国人観光客誘致宣伝事業 等に取り組む。 加えて、ニューヨーク・タイムズの「2025年に行くべき52か所」に選定されたことを契機として、これまで以上に部局横断で外国人観光客の誘致等に取り組んでいく。
中村委員	地域には、若者の定住促進、移住者・転入者の定着が必要であることから、シビックプライドの醸成など、子どもの頃から学校でも家庭でもない、より身近な地域での人との触れ合いの機会や世代間交流の機会、若年世代の郷土愛、地元愛を育む取組が必要と考える。	基本目標2「交流・定住を促進し、富山市への新しい人の流れをつくる ～選ばれるまち～」に「(5)シビックプライドの醸成」を位置づけ、 ・選ばれるまちづくり事業（シビックプライド醸成） ・ライフスタイルBOOK制作事業 に取り組む。 また、 ・地域コミュニティ再構築支援事業 ・地域づくり推進支援事業 等により、地域での住民同士の触れ合いや世代間交流を支援していく。
石動委員	①富山は非常に子育てしやすいまちではあると思うが、今以上にPRしていくことが必要と考える。 ②今後は財政的な支援ではなく、子育ての“質”が魅力になっていく。子育ての“質”を求めたときに、どこに居住するのがいいのかという視点になるため、「こどもまんなか社会、子育て日本一とやま」は、分野横断的に継続して努力していくことが必要と考える。 ③DXによる距離を超える施策により、富山に住みながら都会と同様のサービスが受けられると、より魅力が高まるのではないかな。	①～③ 引き続き「こどもまんなか推進事業」等で機運醸成に取り組むとともに、「移住者発掘・トータルサポート事業（新規事業）」において、移住希望者に対し、個別アプローチする中で、子育て世代や、将来の子育てを見据える若年世代に対し、本市の子育て環境の質の高さや住みよさを積極的にPRしていく。

委員名	意見等	対応（案）
長尾委員	①国・県・市が、それぞれ実行する施策（役割分担）の整理が必要である。	①国や県と連携しながら、基礎自治体ならではの視点から施策に取り組んでいく。
	②施策の優先順位をつける必要がある。	②本市の課題解決や地域ビジョンの実現に向け、集中的に取り組む内容を「重点的取組事項」と位置付け、着実な推進を図っていく。
	③人口減少対策として、中小企業団地などの造成や新産業や成長産業の誘致を施策に位置づけ、人口増を具体的に考える必要がある。	③引き続き企業誘致・企業立地を奨励し、新たに若者が魅力を感じる企業誘致の推進に取り組む予定。
	④今後空き家が増えていくため、上市町の「0円空き家」等の空き家の活用も、具体的な人口増の手段となるのではないか。	④今年度、空き家総合相談窓口を新たに開設し、相談をワンストップで受け付け、課題解決に向けた一貫した支援を開始したところであり、引き続き、空き家バンクの充実等、マッチングの強化を図る。